

第 72 回日本放射線技術学会総会学術大会 印象記

河村 誠治
Kawamura Seiji

1. はじめに

執筆にあたり、本年4月14日夜及び4月16日未明に発生した震度7の“熊本地震”により被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、犠牲となりました方々のご冥福をお祈りいたします。

さて、4月14日(木)～17日(日)まで横浜市のパシフィコ横浜会議センターで第72回日本放射線技術学会総会学術大会(JSRT)が小倉明夫大会長(群馬県立県民健康科学大学)、根岸徹実行委員長(群馬県立県民健康科学大学)のもと開催されました。また本会は、第75回日本医学放射線学会総会学術大会(JRS)、第111回日本医学物理学学会学術大会(JSMP)、日本画像医療システム工業会が行う2016国際医用画像総合展(ITEM)と共同でのJRC2016として実施されています。今回は、主にJSRTに参加した感想を報告させていただきます。

2. 今大会に参加して

JRC2016の開催テーマは、“Instructive (まなび), Innovative (のびし), and Integrative Radiology (つなげる放射線医学)”となっており、その解釈として有益、革新、診療医療を統合し、患者さんへ還元できる放射線医学の研究となっていました。小倉大会長は、学術大会の運営方針を変化させないことが重要であると言われていました。学術大会で最も重要なことは、会員が1年かけて行ってきた研究成果の発表と討論する場を提供することで大会のメインは、学術発表およびディスカッションだと考えているということでした。しかしながら、本大会においては大変大きな変革が一つありました。それは、Cypos発表と通常発表スライドが全面英語化されたことです。これは、放射線技術学会の国際化のため

に決められた方針であり、会員の素晴らしい研究成果を海外にも発信するためです。スライドは全面英語化でしたが発表と質疑は英語でも日本語でも良いとされていて、研究の討議には支障はないと思われました。このようなところに日本放射線技術学会の英知を感じることができた大会であったと思います。

振り返ってみれば、筆者は実に30年以上に渡り殆ど毎年、本会に参加しております。継続して参加できたのは、毎回大きな刺激を得られることが大きいと思います。核医学を行っている方々との話や特別講演や教育講演、シンポジウム、また並行して開催されているJRSやJSMPなどへの参加も自由なこと、さらにはITEMに足を運び最新機器の知識を吸収することができるのがJRCの最大の魅力であると思います。

今回感じたことは、他団体との合同企画がかなり多くなっていることが印象としてありました。最も印象に残った合同企画としては、開会式のすぐ後に合同特別講演として行われた宇宙飛行士の山崎直子先生による「Universe, Human and Dream (宇宙・人・夢をつなぐ)」の講演を挙げることができます。山崎先生は2010年にスペースシャトルディスカバリーに搭乗し、国際宇宙ステーションにて活動された内容を踏まえて、宇宙から地球をみることでの視点である宇宙観や地球観を交えて講演が行われました。その他にも3学術団体による合同シンポジウム1として「次の25年の放射線医学の進歩を見据えて」と題して、放射線医学をこれから牽引していく先生方の講演が行われました。合同シンポジウム2では「医療被ばくの線量評価と管理」と題して、合同シンポジウム3では「造影剤が放射線医療にもた

らした功績」として造影剤の歴史から最新のトピックスまでといった講演内容でした。他団体との合同企画として「科研費獲得合同セミナー」、JSMP-JS-RT 合同特別講演として「New Concepts in CT Dosimetry」と「Integrated MRI-Linacs: A New Weapon in the Battle against Cancer」さらに JSRT-JSMP 合同特別シンポジウムとして「Current Status of Real-time Tumor Tracking Therapy」が行われました。

今大会では、核医学部会の情報交換会にも参加させていただきました。昨年の71回大会までは核医学部会前会長であったため、大会や本情報交換会の企画を行っており忙しくゆっくり参加できませんでしたが、今回は一会員としての参加であったためいろいろな方とお話できたように思います。これからはいろいろな方と会話して少しでも核医学の発展のために何かできないかと考えてる次第です。

14日～17までの主なプログラムを簡単に示します。

14日～17日までに研究発表と教育講演などを含め約680の講演が行われ、殆どのスライドが英語で行われたことに深い感銘を受けた次第です。今後、益々の発展が期待されます。

14日：口述発表

15日：合同特別講演，合同シンポジウム1，JS-RT-JSMP 合同特別講演1・2，宿題報告1，シンポジウム2・3，教育講演，専門部会プログラム，専門講座，科研費獲得合同セミナー，技術活用セミナー，専門部会合同セミナー，専門部会合同シンポジウム，国際交流ランチョンイベント，パネルディスカッション，口述発表，モニタ発表

16日：合同シンポジウム2，シンポジウム1，教育入門講座，海外招聘講演，宿題報告2，JS-RT-JSMP 合同特別講演シンポジウム，教育講演，専門部会プログラム，専門講座，入門講座，技術活用セミナー，瀬木賞受賞講

演，放射線防護フォーラム，標準化フォーラム，放射線管理フォーラム，医療安全フォーラム，診断に役立つ基礎技術学，口述発表，モニタ発表

17日：合同シンポジウム3，教育入門講座，RPT誌優秀論文土井賞表彰・受賞講演，教育講演，専門部会プログラム，専門講座，入門講座，技術活用セミナー，JIRA ワークショップ，口述発表，診断に役立つ基礎技術学，Next Generation（学生選抜セッション），学生対象講演

3. 最後に

以前から言われていることではありますが、SPECT や PET を用いた核医学検査においても CT や MRI などの他のモダリティとの画像情報の融合や連携がますます必要になっていることを今大会では強く感じました。このことを実践していくためには、他のモダリティの方々との繋がりを深め連携した研究が必要であると感じた次第です。今大会のメインテーマである “Instructive, Innovative, and Integrative Radiology” は正にこれからの放射線技術学が目指すべき方向性を表しているものと思います。

なお、本会へ参加するために福岡から羽田への最終便内で地震のために出発が少し遅れますとのアナウンスがありましたが熊本で震度7の地震が起こっているとは全くわからず、横浜に着いて大変な事態になっていることが把握できました。筆者の所属大学は福岡市内ですが学生部長として学生の安否が気になり全学メールを使用して学生の安否を確認しました。幸い、怪我人など皆無でありましたが熊本の実家が全壊した学生さんが少なからずおられました。情報と情報を得る手段はどのような時でも重要であると改めて認識した次第です。

(純真学園大学 保健医療学部 放射線技術科学科)